

- 注 意
- 一、本編中温度ハ凡テ攝氏トス
  - 二、成分量ニ關シ特ニ記載ナキモノハ百分率ヲ以テ表ハセリ

### 臺灣產各種植物ノ試験成績

#### ○蓖麻種子

蓖麻ハ本島各處ニ野生シ數種類アリ又之ガ栽培ハ頗ル好適ノ地多ク從テ採油事業ハ有望ナルモノノ一ナリトス今數種ノ種子ニ就テ分析ヲ遂グルニ其成績左ノ如シ

種 類	水分	油分	有機物質總量	灰分
紅心中粒種(臺東卑原野產)	八〇一	四三・七一	八八、八八	三、一一
背心小粒種(臺東加路園產)	七六二	四〇・七七	八八、九七	三、四一
本島在來種(斗六廳農會試作場產)	九五五	四二、二七	八七、三三	三、一一
瓜哇種(斗六廳農會試作場產)	九〇五	四七、五五	八八、一九	二、八六

#### ○桐油樹子實(Taetopia Curcas, L.)臺南廳楠仔坑產

桐油樹ハ本島ノ所々ニ野生シ又該樹ヲ以テ垣ニ植ユル所多シ球狀ノ實ヲ結ビ二乃至四ノ黑色ナル種子ヲ藏ス今其種子ニ就テ分析ヲ施スニ左ノ如シ

水分	油分	灰分
八、一六	三三、九六	三、九七

臺南廳楠仔坑產各種植物ノ試験成績

臺灣産各種植物ノ試験成績

油以外ノ有機物質

五四、九一

種子ヲ仁及殻ニ分チ各其重量ヲ檢スルニ平均數百分中仁六十一分殻三十九分ヲ得タリ故ニ仁ニ對シ油ノ分量ハ五十四、〇三「プロセント」ニ相當ス

油ノ性狀

比	重(一五度)	〇、九一九四
熔	點	零下二度
凝	點	零下四、五度
酸	價	一二、六六
鹼	價(セユル氏法)	九三、四
ライヘルトアルニ價		〇、一四
屈折率(二六度)		一、四六七三
仁ニ對スル油量		五九、九八
仁并ニ對スル油量		三八、六八

臺灣産茶樹種子

茶ハ本島ノ特産物トシテ著名ナルモノナレドモ茶油製造ハ微々トシテ振ハズ僅ニ小規模ナル本島人ノ搾油業者アル

清國福州ニ於テハ桐油樹子實ノ産出夥シキモノアリ其形狀性質本島産ノモノト稍趣ヲ異ニス試ニ其油量ヲ檢スルニ左ノ結果ヲ得タリ

ノミニ過キズ、種子ハ球狀ニシテ徑約「一」センチメートル「褐色ノ種皮ト種殻トヲ有ス種殻中ニハ薄キ淡褐色ノ核皮ニ包被セラレタル核子アリ今其核子ト種殻トノ比ヲ見ルニ左ノ如シ

種子ニ就テ分析ヲ遂グルニ

核子	五八、四	
種殻	四一、六	
水	二一、六五	
油	二二、〇〇	
灰	二、七八	
比	重(二五度)	〇、九二〇〇
鹼化	價	一八七、〇八
鹼化	當量	二九九、八七
沃度	價	八七、二一
ヘーネル價		九四、三四
ライヘルト、マイスル價		〇、六七
		〇、六八

茲ニ採收セル油ハ淡黄色ニシテ流動シ易ク特種ノ不快ナル臭ヲ有ス其重ナル定數左ノ如シ

「エライディン」試験ヲ施行スルニ二十度ニ於テ一時間ニシテ稍粘稠トナリ漸次稠度ヲ増シ一晝夜ノ後半酪狀トナル尙ホ本油ヲ薄ク硝子面ニ塗布シ百度ニ於テ數時間經過スルモ著シキ變化ヲ認メズ

○班芝樹種子(土名) *Ponbax Malabaricum* DC.

臺灣産各種植物ノ試験成績

錦葵科 (蕃薯蕷産)

檢體ハ褐色ノ卵圓形ニシテ尖端ヲ有シ所々ニ汚白色ノ斑點アリ

水分	一二、八三三
油分	二一、二八一
含炭素有機質	九、五〇二
無炭素有機質	五一、四三四
灰分	四、九五〇

本種子ノ夾雜物ヲ除去シ之ヲ粉碎シテ漉布ニ包ミ二十分間蒸熱シ螺旋壓搾器ヲ以テ徐々ニ加壓シ一晝夜間放置シ得タル油量十五「プロセント」ニシテ更ニ其殘渣ヲ同様ニ操作シ二、五「プロセント」ノ油ヲ得タリ

本油ハ褐色澄明一種ノ芳香ヲ有シ比重攝氏十五度ニ於テ〇、九二六ナリ漸次冷却シテ八度内外ニ至レハ濁濁ヲ始め零下九乃至十度ニ於テ殆ド全ク固結ス、「エーテル」ニ硫化炭素、「コロ、ホルム」ニ「ペンツオール」石油「エーテル」ニ透明ニ溶解ス、「エライジン」ニ試験ヲ施行スルニ漸次濁濁シ不透明トナリ一乃至二時間ノ後泥狀トナル一晝夜間放置スルニ多量ノ黃褐色顆粒狀ノ物質ヲ析出シ一部ノ液狀ヲ保テルモノハ赤褐色ヲ呈ス「モネーメ」氏試験ニヨリ温度ノ上昇ハ八十四度ナリトス又攝氏二十度ニ於テ「エングラ」氏粘度計ヲ以テ檢スルニ其粘度十一、三五ナリ

酸價	二一、六一四
鹼化價	一八二、四八五
鹼化當量	三〇七、四二八
ワイヘルトマイスル價	一、一一二
ヘーネル價	九六、二二一

沃度價	八二、三五二
アセチール價	一七、二二四
アセチール鹼價	一五三、九七四
アセチール鹼化價	一七一、一八八

扁柏油(南投廳下轄大山藤田組伐木所採集)

扁柏ハ松柏科(Coniferae)ニ屬スル喬木ニシテ其學名ヲ *Chamaecyparis obtusa* S. et Z. forma *Formosana* Hay. 稱ス變種數多アリ採集者ノ言ニヨレバ本檢體ハ扁柏ノ根部ヨリ水蒸氣蒸餾ニヨリテ得タルモノナリト云フ

外観 檢體ハ帶黃褐色透明ノ液ニシテ扁柏ニ固有ノ芳香ヲ有ス  
比重 〇、八八八六 (一六度)

旋光度 百「ミリメートル」管中ニ於テ右旋三七、三六度

呈色反應 本油ノ少量ヲ無水醋酸ニ溶解シ濃硫酸ノ一滴ヲ加フルニ綠色ヲ呈ス

檢體ノ割温蒸餾

無水硫酸曹達ヲ以テ脱水シタル檢體百立方「センチメートル」ヲ常壓下ニ於テ割温蒸餾ニ付スルニ其成績左ノ如シ

温度	筒出セル容量 c.c.	旋光度(一〇m.管)	比重(一六度)
一〇五—一五〇度	三	右旋四四、四〇	一
一五〇—一六〇度	二九	同 四四、八〇	〇、八五五
一六〇—一七〇度	一八	同 四四、一〇	〇、八六〇
一七〇—一八〇度	一一	同 四三、七四	〇、八七〇

臺灣産各種植物ノ試験成績

臺灣產各種植物ノ試驗成績

一八〇—一九〇度	一六	同 四二三五	六
一九〇—二〇〇度	一一	同 四一六七	
二〇〇—二七〇度	二六	同 二七六五	〇、九二九

以下殘渣少量

以上ノ成績ニ據ルニ百五十乃至百六十度ニ於テ抽出スル部分最多ク二百度以上ニ至レバ溫度ハ急遽ニ上昇シテ二百七十度内外ニ於テ大略其蒸餾ヲ終ル今内地産局柏油ニ關スル報文(藥學雜誌第三百三十四號)ヲ參照スルニ内地産ハ輕油分甚ダ少量ニシテ殆ド二百六十度以上ニ抽出スル「セスキテルベン」ノミヨリナルモノノ如ク本檢體ト大ニ其性狀ヲ異ニスルヲ見ルベシ

○臺灣產薯榔ニ就テ

薯榔ハ Dioscoreaceae 薯蕷科ニ屬シ學名ヲ *Dioscorea thipogonoides* ト稱ス植物名實圖考ニヨルニ薯蕷ハ閩廣諸山ニ産シ蔓生無花葉形尖長ニシテ夾竹桃ノ如シ節々小刺アリ根ハ山藥ノ如クシテ毛アリ形芋子ノ如ク大小一ナラズ外皮ハ紫黑色ニシテ内肉紅黄色節々下ニ向テ生ス毎年一節ヲ生ス野生ナリ土人其根ヲ搾取シテ汁ヲ煮綱醫ヲ染ム水ニ入レテ濡レズ根ヲ留メテ山ニ在リ生々息マズ云々  
本島ニ於テハ蕃界ノ山脈一帶ノ地ニ野生シ就中北部ニ於テハ花蓮港瀛溼産ノモノヲ良シトス蕃産物ノ一ニシテ本島人ハ布又ハ魚網ヲ染ムルニ用ユ其主成分ハ澱粉ニシテ加フルニ相當量ノ單寧ヲ伴フ地味採取ノ時季及植物ノ年齒ニヨリ著シク單寧含有量ヲ異ニス

供試品ハ四十二年十月蕃地ヨリ採取セルモノニシテ球根三乃至四ヲ具有ス

水	ノ分	六五、一四	試料一	六六、三七	試料二	六六、三〇	試料三
溶解性同形物		五、三三		八、〇九		六、二〇	
タンニン		三、二二		四、三三		四、八三	
非タンニン		二、一一		三、七七		一、三七	

(獸皮宋法ニ據ル)

薯榔タンニンノ性状

六六、八一式

正八六式

試薬名	反應	性状
臭素水	沈澱ヲ生成ス	沈澱ヲ生成ス
鐵鹽	帶紫黑色ノ沈澱ヲ生ス稍時ヲ經過スレハ褐色トナル	帶紫黑色ノ沈澱ヲ生ス稍時ヲ經過スレハ褐色トナル
アンモニウム性硫酸銅	褐色ノ沈澱ヲ生ス「アンモニウム」ノ過剰ニ溶解セズ	褐色ノ沈澱ヲ生ス「アンモニウム」ノ過剰ニ溶解セズ
亞硝酸曹達	僅カニ洋紅色ヲ呈シ鹽酸ヲ加フルハ橙色沈澱ヲ生ス	僅カニ洋紅色ヲ呈シ鹽酸ヲ加フルハ橙色沈澱ヲ生ス
鹽化錫及鹽酸	著シキ反應ナシ	著シキ反應ナシ
亞硫酸曹達	淡洋紅色沈澱ヲ生ス	淡洋紅色沈澱ヲ生ス
硫	黄濁シ后冷却スレハ混濁ス	黄濁シ后冷却スレハ混濁ス
酸(C10)	反應ナシ	反應ナシ
石	淡洋紅色沈澱ヲ生ス	淡洋紅色沈澱ヲ生ス
苛性加里	赤色トナル	赤色トナル
セウチン	淡洋紅色沈澱ヲ生ス	淡洋紅色沈澱ヲ生ス
明礬	結晶ナシ	結晶ナシ

臺灣產各種植物ノ試驗成績

薑科各種植物ノ試験成績

吐酒石

洋紅色トナル之レニ鹽化アンモニアヲ加フレハ同色ノ沈澱ヲ生ス

モリブデン酸アンモニア

黃色沈澱ヲ生ス硝酸ヲ加フレハ原色ニ復ス

重クロム酸加里

殆ント變化ヲ認メザルモ稍々時ヲ経レハ黃色ノ沈澱ヲ生ス

薯榔「エキス」ノ製造

試料十一貫九百五匁(但シ試料ハ前記分析ニ使用シタル)ヲ細片トシ樽ニ入レ攝氏九十度内外ノ熱湯約二倍量ヲ注入シ放置スルコト二十四時間ニシテ薯榔ヲ取出シ別器ニ盛り再ビ熱湯ヲ以テ浸出スルコト凡テ前後四回ニ及ビ綿布ヲ以テ之ヲ濾過シ各浸出液ヲ集メ約二石ヲ得タリ之レヲ約一石入ノ銅製重湯煎上ニテ蒸發スルコト約十二時間ニシテ取出シ更ニ磁製蒸發皿ニ移シ重湯煎上ニ於テ蒸發シ粘稠適度ト認ムル頃即チ攪拌棒ヲ取上グレバ長ク線ヲ引クニ至リテ止メ之レヲ冷却シ茲ニ稍柔軟ナル乾塊ヲ得タリ此乾塊ハ水ニ容易ニ溶解シテ赤褐色ノ液ヲナス直チニ以テ染色ニ使用シ得

試料

「エキス」量

百分率

一一、九〇五<sub>g</sub>

六九八<sub>g</sub>一九

五、八六五

○綠珊瑚ニ就テ

綠珊瑚一ニ鐵樹又宣呼端ト稱ス大戟科 Euphorbia 屬ニ屬スル Euphorbia Thunbergii L. ニ一致ス本島ニ於テハ打狗臺南地方ノ珊瑚嶼上ノ不毛ノ岩角ニ繁茂ス高サ一丈乃至一丈五六尺ニ達シ綠色圓筒狀ノ鈍キ尖端ヲ有スル枝及小枝ヲ有シ各極メテ小ナル葉ヲ附ス今此枝又ハ小枝ニ刀痕ヲ附スレバ夥ク乳液ヲ滲出ス印度ニ於テハ此乳液ニ油ヲ混ジ一種ノ塗擦劑ト爲セリト又 Dr. J. Schacht 氏ハ梅毒ノ特效藥トシテ之ヲ勸告シ「フィリピン」土人間ニ於テハ「マラリヤ」

脾腫、喘息又ハ下痢トシテ用ヒラル本島ニアリテハ未ダ藥用ニ供セラル、ヲ聞カズ一種ノ有毒樹トシテ一般ニ之ニ近づくヲ好マズ

小枝ヲ壓搾シテ得タル液汁ニ就キ分析ヲ遂グルニ左ノ如シ

水	分	八七、二八
樹脂		〇、二五
第一類ノ糖 (Monsaccharides)		一、〇三
第二類ノ糖 (Disaccharides)		三、一〇
蛋白質其他(無水アルコールニヨリ沈降スルモノ)		八、三〇
比	重(七度)	一、八〇四
壓搾汁ハ無水「アルコール」ヲ以テ處理シテ樹脂ヲ得更ニニコロ、ホルム」ヲ以テ精製シ茲ニ原料百分ニ對シ〇、一〇二分ヲ收得セリ樹脂ノ主ナル成分左ノ如シ		九、九
水	分	二八、九
オイホルボン		六、〇
カウスチツク		六、〇
灰	分	六、〇

「ビキサ、オレラナ」ノ種子ニ就テ

「ビキサ、オレラナ」(Tixa Orillana Z.)ハ椅科(Finnae)ニ屬シ朱木(アケノキ)ト稱セラル熱帯ニ産スル常綠灌木ニシテ二月開花シ四月結實ス花ニ淡紅純白ノ二種アリ恰モ杏花ノ稍大ナルニ似タリ花散リテ刺殼ヲ生ズ長一寸余内ニ

薑科各種植物ノ試験成績

二三十粒ノ種子ヲ藏ス種子ハ暗赤色樹脂ニ富ミタル薄皮膜ヲ以テ蔽ハル此皮膜ハ即色素ノ原料トナルモノニシテ殺熱スルニ從ヒニ裂開口ス風致木トシテ公園庭園ニ適ス

既ニ古クヨリ知ラレタル「アンナット」(Anatto)又ハ「Annatto, Annatto」ナル染料ハ其原料ヲ本種子ニ仰グモノニシテ「トーマス」氏ノ「フロリッピン」藥用植物ニ記載スル處ニ依レバ「フロリッピン」島ニ於テハ種子ノ主ナル用途ハ料理ニアリ即チ同地方特有ノ黄色ニ着色セラレタル料理ハ之ヲ用ヒタルモノナリ且ツ健胃劑トシテ稱揚セラレ尙往々赤痢患者ニ服用セシムル處アリ云々ト、印度及ビ「ブラジル」等ニ於テハ「Boor」ナル名稱ヲ以テ又歐米ニ於テハ「アンナット」ノ名ヲ以テ販賣セラル熱帶地ニ於ケル「アンナット」製造ハ極メテ簡易ナルモノニシテ種子ヲ樽ニ入レ水(時トシテハ温湯)ヲ注加シ數日間放置ス然ルトキハ茲ニ醱酵ヲ起シテ子質ト「バルブ」(皮膜)トハ殆ト分離セントスルニ至ルヲ以テ之ヲ攪拌シ「バルブ」ヲ分チ取り陰干ニシ水分ノ飛散シテ稠密トナレバ「二」三「オンス」ノ球狀又ハ扁平狀ト爲シ芭蕉葉等ニ包ミテ輸送スルナリ其最モ高價ナルモノハ手掌ニ油ヲ塗抹シテ一々ニ種子ヨリ「バルブ」ヲ剝離シ製出セルモノニシテ色素含有量多ク品質良好ナルモノナリ歐洲ニ輸入セラル、「アンナット」ハ二種アリテ一ハ球狀ニシテ其實堅ク内部ハ赤色ニシテ外部ハ褐色ヲ帶ブモノ他ハ不快ナル臭氣ヲ放ツ黄色ノ極メテ柔軟ナル塊ナリ

「アンナット」ハ各種ノ纖維ニ對シ鮮明優秀ナル帶黃赤色ヲ與フレドモ日光ニ不堅牢ナルヲ以テ纖維染色ノ用途ハ殆ト其跡ヲ斷ツニ至レリ然レドモ飲食物ノ着色劑殊ニ「バター」「チーズ」等ノ染料トシテハ極テ貴重セラル、モノニシテ歐米ニ於ケル需要甚カラス其他「ペンキ」ノ着色ニ使用ス

「アンナット」色素ノ化學的研究ハ種々ナル學者ニ依リ試ミラレシモ未タ完シト謂フヲ得ズ今日一般ニ認メラル、處

ニヨレハ「アンナット」ニハ二種ノ色素アリ「ビキシン」(Bixin)及「オレリン」(Orellin)是ナリ前者ハ水ニ不溶性ノ樹脂様赤色素ニシテ「アルコール」「エーテル」「ピリジン」「アルカリ」等ニ溶解ス後者ハ水「アルコール」ニ容易ニ溶解スル黄色素ナリ其主成分ハ「ビキシン」ニシテ是ガ化學的構造ハ  $C_{20}H_{26}O_4$  トスルアリ又ハ  $C_{20}H_{26}O_4$  トスルアリ近ク von Hasselt 氏ノ研究ニ由リ  $C_{20}H_{26}O_4$  ニシテ一個ノ水酸基及「メソオキシル」基ヲ有シ其熔融點百八十九度ナリトセリ

臺南廳恒春産種子ニ就キ施行シタル分析成績左ノ如シ

水分	11.3%	灰分	1.1%
蛋白質	23.9%	脂肪	8.9%
糖質	41.7%	色素	4.1%

種子ハ炭酸曹達液ヲ以テ數回煮沸シ色素ノ全部ヲ溶解セシメ鹽酸ヲ以テ其色素ヲ沈澱セシム色素ハ稍不純ナルヲ以テ此操作ヲ反覆シ沈澱ヲ乾燥秤量シタルモノナリ

○臺灣産落花生豆試驗成績

殼付落花生豆	薄皮付落花生豆	落花生豆	落花生豆殼
落花生豆殼	落花生豆殼	落花生豆	落花生豆殼
七三、五五三	二六、四四七	一〇、三七三	一四、〇〇二
八、四三八	二、三七六	一、八四〇	〇、三六三
四、五七六	淡黄色	同	帶黃褐色
脂肪ノ色			

臺灣産各種植物ノ試験成績

臺灣產各種植物ノ試験成績

加	里 (K <sub>2</sub> O)	〇、九〇七	五、二九六	〇、六三三
燐	酸 (P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> )	〇、九八二	一、〇一三	〇、一七七
窒	素	四、九八〇	〇、八五二	〇、三三〇

○落花生豆粕試驗成績

製造地名	水分	有機質	灰分	加里	窒素	磷酸
臺北廳大稻埕	一五、〇六八	七七、五六〇	七、三七二	一、〇九〇	五、〇七五	〇、九六二
臺北廳大稻埕	一〇、五二八	八一、七六〇	七、七二二	一、二〇五	四、七九五	一、〇八一
臺北廳大稻埕	九、〇二八	七二、二六〇	一八、七二二	〇、八七〇	三、八五〇	〇、九〇六
臺北廳大稻埕	八、八七二	七八、八二〇	一一、三〇八	〇、九八三	四、一三五	一、一三〇
臺北廳新庄街	一一、二二八	八〇、四〇〇	七、三七二	一、二三九	四、四四五	〇、七九〇
臺北廳新庄街	九、八四〇	七八、八二〇	一一、三四〇	一、一〇九	四、四一〇	一、〇三三
臺北廳士林街	一〇、四六〇	八二、三六〇	七、一八〇	一、三三一	五、三三〇	〇、七九〇
臺北廳枋橋街	一三、七六八	七九、三四〇	六、八九二	一、二五三	五、二二五	〇、八九八
臺北廳枋橋街	一六、八六〇	七三、一八〇	九、四六〇	一、三三〇	五、〇〇五	一、〇九二
新竹廳新竹	一三、七四〇	七七、七二〇	八、五四〇	一、二〇五	五、〇〇五	〇、七五一
宜	九、六六〇	八一、四二〇	七、四二〇	一、一六〇	五、一四五	一、〇八一
臺北廳大稻埕	一一、〇八〇	七七、七四四	一〇、一七六	一、五一三	四、三〇五	一、二〇三
臺北廳大稻埕	一一、二四一	七七、七四三	一〇、〇二六	一、四七八	四、三七五	一、〇八〇
臺北廳大稻埕	一一、六二六	七二、七三四	一四、六四〇	一、三八三	四、三四〇	一、二二三
臺北廳士林街	一一、七八九	七八、三三一	八、八八〇	一、八八一	四、〇六〇	一、〇八二
臺北廳錫口街	一一、八五二	七七、四一六	九、七三二	一、四八五	四、五一五	〇、九三三

○茶油粕試驗成績

水分	有機質	灰分	加里	窒素	磷酸
一七、七〇八	一〇、八〇四	一、五六〇	四、八三〇	一、一六〇	
四、一六二	六、八二四	一、五一三	四、七六〇	一、三九一	
一三、〇八〇	一五、〇五六	一、三五四	三、九五五	一、六一六	
七八、一三〇	一四、七七八	一、四七八	四、三三五	一、一九〇	
二、〇七八	〇、七四七	〇、七四七	〇、三六一	一、四一三	
〇、七四七	一一、〇一六	一、四一三	一、四一三	一、四一三	

茶質中ニ一種ノ毒成分「サボニン」ヲ含有スル事ハ既ニ公知ノ事實ニシテ且往々殺蟲劑トシテ使用セラル、モ亦其「サボニン」ノ存在ニ基因スルモノト想察セラル、ヲ以テ之ガ試験ヲ施行セリ「アルコール」ヲ以テ茶油粕ヲ煮沸シ褐色ノ浸出液ヲ得之ヲ冷却スルニ白色脂肪様ノ觀アル物質ヲ析出セリ本物質ハ水ニ極メテ可溶性ニシテ其水溶液ヲ振盪スレバ盛ニ泡沫ヲ生ズ之ヲ稀薄酸ト煮沸スレバ還元性ノ液トナリ結晶性ノ沈澱ヲ生ズ、水溶液ヲ以テ鹵ニ對シ動物試験ヲ施行スルニ其毒性極メテ強烈ナルヲ見ル、是ニ由ルニ本油粕ハ一種ノ「サボニン」ヲ含有シ其毒性ハ「サボニン」ノ存在ニ基因スルモノト認ムベシ而シテ處定ノ方法ニヨリ「サボニン」含有量ヲ檢スルニ本島產茶油粕ニ於テ三、五八「プロセント」清國產茶油粕ニ於テ一、三四「プロセント」ヲ得タリ

○木麻黄樹皮ノ「タンニン」

本麻黄ハ學名ヲ *Casuarina equisetifolia* ト稱シ木麻黄科ニ屬シ本島南部ニ能ク成育ス

總督府殖産局恒春植物殖育場ノ好意ニ依リ該樹皮ヲ得タルヲ以テ單寧含有量ヲ檢スルニ左ノ如シ  
檢體ハ六年生ニシテ甲ハ地上約二間ノ所ヨリ剥皮セシモノ乙ハ地上約二尺ノ所ヨリ剥皮セシモノナリ

水分	甲	一五、九六
全固形物		八四、〇四
溶解性固形物		二二、六六
タンニン		六、八九
	乙	一五、二五
		八四、七五
		三二、五八
		一〇、〇五

(レーウエンダーレル及フロクター氏法)

○檳榔樹果實中ノ「タンニン」

檳榔樹ハ學名ヲ *Areca Catechu* L. ト稱シ棕櫚科ニ屬スル植物ニシテ本島南部地方ニ茂生ス果實ハ綠色長卵形ニシテ長三乃至六「センチメートル」周圍五乃至八「センチメートル」ナリ底部ニ柄ヲ有ス一個ノ重量六乃至十四「グラム」ニ到ル本果實ハ厚キ纖維素ニ富メル外皮ヲ以テ覆ハレ内部ニ白色ノ子實アリ此子實ハ内部裝狀ヲナシ無色ノ液汁ヲ藏ス子實ハ果實ニ對シ約三割ノ重量ヲ有ス今此子實ニ就テ分析ヲ遂グルニ左ノ如シ

水分	八二、三五
タンニン	五、四〇

カタチヤン

〇、一五

○烏面馬 (土名)

烏面馬、磯松科 *Plumbaginaceae* ニ屬スル植物ニシテ其ノ學名ヲ *Plumbago Zeylanica* ト稱ス本草ハ強烈ナル發泡性

ヲ有スルニヨリ之レヲ搗碎シ皮膚ニ塗布スレバ其ノ部分著シク潮紅シ漸次暗褐色ニ變ジ診斷ノ時期ニヨリテハ輕微ノ打撲或ハ火傷等ノ外傷ト誤認スルノ症狀ヲ呈スルヲ以テ本島人間ニ於テハ故ラ之レヲ皮膚ニ塗布シ外傷ヲ裝フ等ノ惡手段ニ應用スルモノアルガ爲メ屢々訴訟事件ヲ喚起スルコトアリ「フキリッピン」藥用植物書ノ記載ニヨレバ本草中ニハ「ブルンバギン」ト稱スル無室素性ノ物質ヲ含有シ此ノ物質ハ美麗ナル橙黃色ノ針狀結晶ヲナシ揮發性ニシテ其ノ水溶液ハ亞爾加里ニ遇ヘバ櫻實様赤色ヲ呈シ酸ニヨリ元色ニ複スト云フ

今本島産烏面馬草中ノ成分右ノ記載ト一致スルヤ否ヤヲ試ミンガ爲メ其ノ細挫セルモノニ水ヲ加ヘテ冷浸シ充分浸出ヲ行ヒ之レヲ濾過シ其ノ濾液ニ「エーテル」ヲ加ヘ數回振盪シタルニ「エーテル」部分著シク著色セルヲ以テ此ノ「エーテル」分ヲ分取シ蒸發シタルニ美麗ナル橙黃色ノ針狀結晶ヲ析出セリ由ツテ此ノ結晶ヲ精製シ少量ノ水ニ溶解シテ之レニ黃性加里ヲ加フルニ櫻實様赤色ヲ呈シ酸ヲ加フルニヨリ元色ニ複スル等前記ノ「ブルンバギン」ノ性状ニ一致スルヲ認メタリ

○木瓜實

木瓜ハ西蕃蓮科 *Pasifloraceae* ニ屬スル植物ニシテ其ノ學名ヲ *Carica Papaya* ト稱ス本島ノ各地ニ産シ其ノ果實

臺灣産各種植物ノ試験成績



臺灣産各種植物ノ試験成績

ハ食用ニ供セラル而シテ本植物ヲ傷クルニ當リ滲出スル乳狀ノ汁液中ニハ(Papa,yotin 又ハ Papain)ト稱スル一種ノ消化酵素ヲ合存ス今此ニ掲グルハ果實ニ就テ行ヒタル試験成績ナリ

水	八九、六四五
含窒素物(蛋白質トシテ)	〇、七四七
粗脂肪	〇、三一七
無窒素有機物	七、八八一
粗纖維	一、一八〇
礦物質	〇、一三〇

〇桑葉分析成績

臺北廳農會ヨリノ依頼ニ依リ臺北廳下擺接保項埔庄臺北廳農會試驗桑園産桑葉ニ就キ分析セル結果左ノ如シ(百分中ノ「グラム」量)

風乾物百分中

種類各稱	新鮮分體	水分	窒素	磷酸	加里	灰分	粗蛋白質	粗脂肪	粗纖維	可溶性無窒素物	摘葉年月日
管桑	七三、八五	一一、三六	四、二五	一、一七	二、六二	八、二三	二六、五八	三、九三	一一、五二	三七、三七	四十四年四月廿五日
市平	六四、一三	一〇、九二	五、一一	一、二八	二、一五	八、〇四	三二、五三	五、二一	一一、四一	三三、三七	同
芭蕉	七五、一八	九、四三	四、二二	〇、八五	一、六七	九、六八	二六、四〇	四、二二	一二、七七	三七、九四	同
在來野生	六七、〇三	一〇、五三	三、二七	〇、六四	二、〇五	一一、二五	二〇、四五	三、二七	一一、四三	四一、三七	同

類	野	生	原	野	生	類	野	生	原	野	生	類	野	生	原	野	生
六八、五六	一〇、九五	二、九九	一一、七六	一八、六九	八、三三	八、四五	四一、八二	四十四年五月十八日	六八、八五	一二、四四	三、〇二	一〇、一六	一八、八八	八、一一	一〇、七四	三九、六七	同